

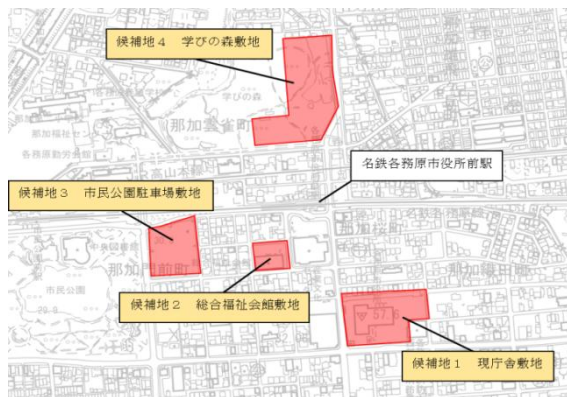
新庁舎建設かわら版 ～第4号～

第2回新庁舎建設基本計画策定委員会を開催しました

平成27年10月2日(金曜日)午前10時から第2回各務原市新庁舎建設基本計画策定委員会(以下「委員会」といいます。)を開催しました。
第2回委員会では、新庁舎の建設場所と市庁舎全体の想定規模について検討を行いました。

1. 新庁舎の建設場所について

建設場所は、基本構想において現庁舎周辺エリアとしており、そのエリア内の4つの候補地(①現庁舎敷地、②総合福祉会館敷地、③市民公園駐車場敷地、④学びの森敷地)について、現況や特徴、課題点などを踏まえ検討を行いました。今後も建設場所についての検討を進めていきます。



▲現庁舎周辺エリアの4つの候補地

候補地	主な肯定意見	主な否定意見
①現庁舎敷地	○耐震性の確保は喫緊の課題であり、①以外では余分な期間が必要 ○④は①より3～4年多く時間が必要、早期実現性を考え、①が最も良い ○他の候補地は近年整備や改修されたばかりであり、周辺環境整備のために費用が拡大することは市民の理解が得られにくい	○現状以上の敷地拡大が期待できない ○建設案に無理があるように感じる
②総合福祉会館敷地	(特になし)	○交通アクセス、敷地の広さ、都市計画など多くの問題があり建設は困難 ○目的をもって整備され、現在も利用中であり、市民の理解が得られない
③市民公園駐車場敷地		
④学びの森敷地	○まちづくりの基本理念としてきた水と緑の都市にふさわしく、将来の発展につながる ○長い期間をかけて周辺環境を整備してでも④に建設すべき ○集約したゆとりある庁舎が可能	○自動車でのアクセスが弱い(踏切の改良や周辺道路の拡幅整備が必要) ○整備したばかりで、庁舎のために使用するのは市民の理解が得られない ○市民アンケート結果ではシンボル性は求められていない

2. 新庁舎の規模について

市庁舎全体の想定規模として、総務省の旧地方債算定基準、文書量調査や執務環境調査の結果を踏まえ、市庁舎全体の規模を約20,000㎡とし、既存庁舎(産業文化センターや総合福祉会館、水道庁舎)の利活用の観点を含めて新庁舎の規模の検討を行っていくこととしました。

市本庁舎の最大の課題は、**耐震性が不足していること**です。また、防災拠点として**災害対策本部室の確保**、災害発生時の電力確保のための**自家発電装置**等に課題があり、他市事例等を踏まえながら導入機能を検討を行います。



庁舎基礎の下の免震・制震装置／半田市



災害対策本部が設置される大会議室(左)隣接する情報収集スペース(右)／小牧市



防災広場やイベント広場としても使用できる駐車場／青梅市



災害時の電力確保ができる自家発電装置／刈谷市

新庁舎とまちづくり 防災講演会を開催しました



平成27年10月6日(火曜日)午後1時30分から「新庁舎とまちづくり 各務原市防災講演会」を文化ホールにて開催しました。

平日の昼間にも関わらず、多くの方にご来場いただき、講演後には「良い内容で参加してよかった」という感想を多くいただきました。講演の要旨は市ウェブサイト「新庁舎建設」内に掲載しておりますので、ご覧ください。

第1部では、杉戸真太氏(岐阜大学理事兼清流の国ぎふ防災・減災センター長)に「差し迫る南海トラフの巨大地震 各務原市民の自助共助による減災は可能か」をテーマに講演いただきました。

- ・発生周期から南海トラフの巨大地震は30年以内にほぼ確実に発生すること
- ・各務原市での想定震度は、6弱～6強。巨大地震特有の長い強震が続くという特徴がある
- ・震災時には地域住民による初期消火や救助活動が重要。自分の街は自分たちで守るという自助共助の意識を常に持つことが大切
- ・長い揺れが続くと固定した家具でも転倒するため、過信せず、特に寝室には家具を置かない
- ・自然災害は人間社会の弱点を見逃さないため、市庁舎など重要な社会基盤は地震に強くすることが重要



▲第1部講師の杉戸真太氏

第2部では、谷川三郎氏(阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター語り部)に「阪神・淡路大震災 その体験を語る」をテーマに、自ら被災した体験談をもとに、震災直後の芦屋市を撮影したビデオを交え講演いただきました。



▲第2部講師の谷川三郎氏

- ・地震発生時は強烈な揺れで1歩も動けなかった
- ・早朝だったため、すぐに家族の安否が確認できたが、普段から連絡方法や集合場所を話し合っておくことが大切
- ・勤務先に向かう幹線道路は大渋滞。自動車を乗り捨てても障害になるため災害発生時には車は使わない方がよい
- ・市職員も救助活動にあたったが、救助者の8割が地域住民により救助された。地域の自主防災組織による初期活動は極めて重要
- ・避難される方が真っ先に来られたのは市役所だった。市役所が潰れるようでは大変なことになるため、しっかりと建物を作ることが必要であり、重要

他市庁舎の機能紹介（防災機能）

新庁舎の機能を考える市民ワークショップ

第4回新庁舎の機能を考える市民ワークショップ

第4回新庁舎の機能を考える市民ワークショップ(以下「WS」といいます。)を平成27年9月5日(土曜日)に開催しました。



第4回WSの概要

前回に引き続き、現庁舎の課題を踏まえ、市民に安心・安全な庁舎をテーマに、3班に分かれて話し合いました。
WSの結果は下図と右下の表のとおり。
(詳細は市ウェブサイトをご覧ください。)

機能の分類	新庁舎はこのようなものに(意見、提案、アイデアなど)
安心して安全に利用できる庁舎	・トイレは明るく誰でも使いやすわかりやすい場所に ・階段は手すりを充実させ、勾配は緩やかに ・エスカレーターやガラス張りのエレベーターを設置 ・駐車場は台数・スペースともにゆとりがあるといい ・駐車場はゲート式で、平面のほか雨に濡れない立体や地下のものも設ける
市民が誇れる、訪れたいくなる 開かれた庁舎	・明るく開放的で、障がいのある方にも優しいこと ・カフェや交流の場があり親しみやすいこと ・機能を集約し機能的だが、各務原らしさがある庁舎 ・飛行機が見える庁舎
その他	・防音は必要 ・太陽光発電を利用する ・災害時は避難できる場所に

第5回新庁舎の機能を考える市民ワークショップ

最終回となる第5回WSを平成27年9月26日(土曜日)に開催しました。

第5回WSの概要

第1回から第4回までの意見やアイデアを踏まえ、各班で「市民が誇れる庁舎」(1班)、「市民にやさしい庁舎」(2班)、「市民に開かれた庁舎」(3班)のテーマについてまとめ、市長参加のもと発表を行いました。
(詳細は市ウェブサイトをご覧ください。)



3班に分かれて最後の話し合い



1班の代表による発表

2班の代表による発表

3班の代表による発表

閉会のあいさつをする市長

○市民の意見を踏まえた親しめる設計に！
○何があってもびくともしない庁舎に！
○市の雰囲気にあったゆとりある庁舎に！
○利便性を考えた庁舎に！
○機能を集約とともに利便性ある人員配置を！

○庁舎全体にバリアフリーを徹底！
○プライバシーが確保された窓口
○車いすやベビーカーでも通りやすい通路に！
○使い手にやさしいエレベーター・エスカレーターの設置を！
○福祉関係は主に1階としキッズスペースを設ける！
○総合案内を分かりやすい場所に！
○分かりやすい案内表示を！

○市民も利用活用できる庁舎に
○オープンで開放的な庁舎に！
○バリアフリーに配慮した開かれた議場に！
○飲食スペースのある待合など親しみやすく居心地よいスペースを！
○近くて十分な台数駐車できる駐車場を！

市民が誇れる庁舎のまとめ(1班)

市民にやさしい庁舎のまとめ(2班)

市民に開かれた庁舎のまとめ(3班)

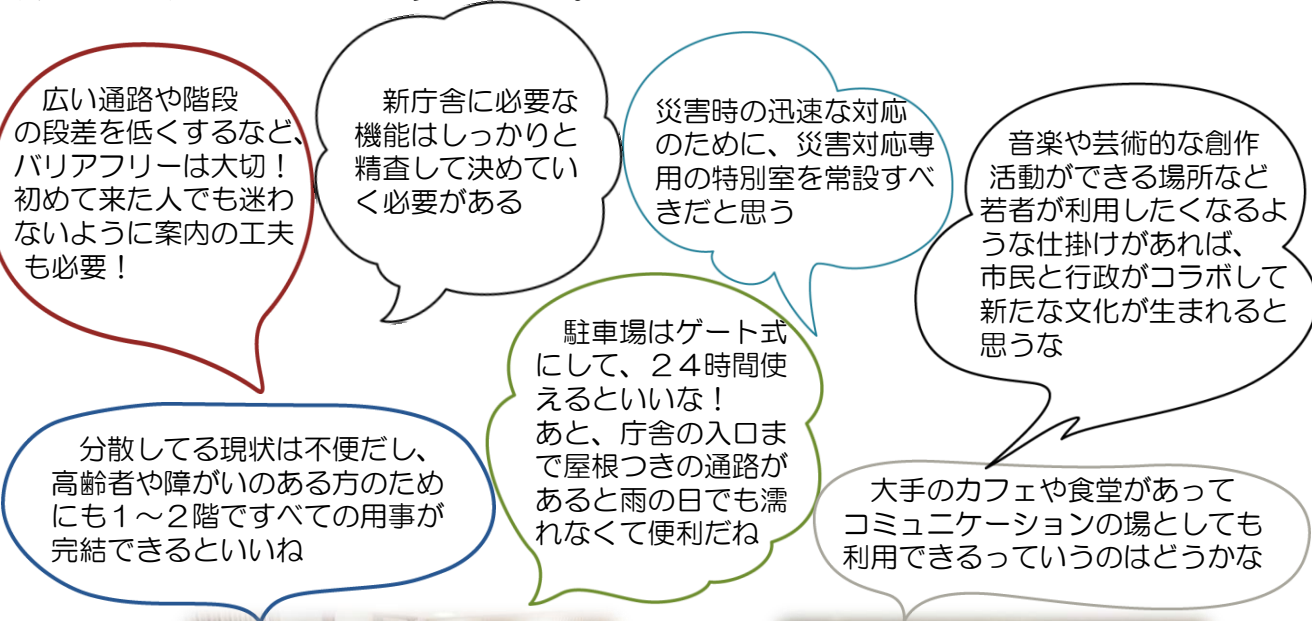
新庁舎建設かわら版第4号(平成27年11月発行)

新庁舎タウンワークショップ～みんなの新庁舎を考えよう～を開催

市民の皆さんに愛される新庁舎とするため、新庁舎タウンワークショップを平成27年10月13日から22日までの平日の夜に市内8会場で開催しました。

新庁舎タウンワークショップでは、「誰もが利用しやすい庁舎」「市民に親しまれる庁舎」「市民の安心・安全をまもる庁舎」などについて、参加されたみなさんからアイデアやご意見を出し合い、話し合いました。

詳細は市ウェブサイトをご覧ください。



他市庁舎の機能紹介(市民サービス機能)



▲待合スペース／小牧市

○ロビーチェアの間隔に余裕があるため、誰でも利用しやすい
○座った状態でも窓口の呼出し番号が見やすく表示され、待ち時間を快適に過ごすことができるよう工夫されている



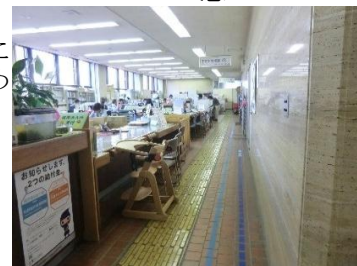
▲窓口スペース／小牧市

○プライバシーに配慮した目隠しがあり、座って落ち着いて相談ができる
○窓口前の通路に十分な広さがあるため、背後を通る人が気にならない



▲待合スペース／各務原市

○通路部分に狭い間隔でロビーチェアがあるため利用しにくい、狭あい化が進んでいることから改善は困難
○耐震補強を行うには、内部にも耐震ブレースが入るため、狭あい化がさらに悪化してしまう



▲窓口スペース／各務原市

○プライバシーに配慮されておらず、通路を通る人の視界に入ってしまう
○窓口前の通路が狭く、イスに座ると誘導ブロックの一部をふさいでしまう

お問い合わせ先 各務原市 企画総務部管財課 庁舎等建設係電話:058-383-1619(直通)